

# 味噌川ダムと木曽川源流の村

連載  
最終回

木曽川源流の里を、住民主体の元気で活力ある里に

NPO法人 木曽川・水の始発駅 岩原 大輔

## (1) 自立による村づくりを選択した住民

国の施策である平成の町村合併構想は、平成13年から木祖村内にも大きな議論を呼びました。

村民の意見が合併と自立(合併しない)に二分化したため、平成16年6月20日に行われた住民意向調査に基づき、町村合併をせずに自立による村づくりを選択しました。そして、木曽川源流の里木祖村自立プランを策定し、住民参加による自立の村づくりを進めていくことになりました。

## (2) 「NPO法人 木曽川・水の始発駅」誕生まで

### ①「木曽川源流の里ビジョン(味噌川ダム水源地域ビジョン)」の策定

平成14年3月にダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図ることを目的として、木祖村役場、村民、味噌川ダム管理所、その他関係機関の多くの方々が参加して、「木曽川源流の里ビジョン」が策定されました。

ビジョン策定にあたり、「源流の里の魅力」を「どのように生かしていくか」などについてグループ討議を重ね、計5回もの協議を経て、以下の4つのプロジェクトチームを結成しました。

1. 「遊木民プロジェクト」……仲間づくり、情報収集・発信を受け持つ
2. 「四季の彩プロジェクト」……<sup>いろどり</sup>景観・環境形成
3. 「体験・学びプロジェクト」……体験、学習を主とする
4. 「食の塩梅プロジェクト」……<sup>あんばい</sup>郷土の食を活かした商品開発

委員会では4つのプロジェクト事業を基にして、木祖村に暮らす人々のつながり、地域が守ってきた水と緑

の豊かな自然、村民によって受け継がれてきた伝統や文化、これらを村民が一体になって守り、育て、生かし、そして更なる木祖村の活性化に向け、村のシンボルでもある味噌川ダムを役立てることが、源流の里木祖村にとって何より重要であると考えました。

※プロジェクト構成は策定当時のもので、現在は、3.「体験・学びプロジェクト」の事業を1.「遊木民プロジェクト」が受け継ぎ、3つのプロジェクトで活動しています。

### ②「NPO法人 木曽川・水の始発駅」の誕生

「木曽川源流の里ビジョン」の事業を具体的に推進していくためには、行政主導ではなく、住民が主体で活動が行える、地域活性化の要となる別の組織が必要であると考え、平成22年4月、木祖村初のNPO法人が誕生しました。

法人の名前は、木祖村が木曽川の源流であること、この木曽川の流れを通じ上下流の交流など様々な縁がはじまることを願い「木曽川・水の始発駅」と名付けられました。

NPO法人 木曽川・水の始発駅(以下、NPO水の始発駅)は、村内外の個人や団体など100人以上の会員で構成されています。

味噌川ダム管理所にはNPO誕生当時からサポート会員として、人員の派遣や機材等の提供をはじめとし、活動全般にわたって積極的なサポートを頂いています。



「木曽川・水の始発駅」の標注モニュメント

### (3)「NPO法人木曾川・水の始発駅」の活動内容

NPO水の始発駅は、今日まで、多種多様な事業を行っており、“多くの人に木曾川源流の里の素晴らしさを伝える”をミッションに掲げ、地域の元気と新しい魅力を創造するための活動を行っています。

#### ①木曾川源流の里グリーンツーリズム 【遊木民プロジェクト】

グリーンツーリズムは、四季折々の木曾川源流の里の暮らしや文化を体験してもらう企画です。

例えば、春は山菜をテーマに、春山へ入り山菜収穫体験を行い、夕食には山菜づくしの料理で山菜パーティを行います。翌日は、新緑に染まる水木沢天然林でハイキングをするなど、一連の体験を通じ、その季節の源流の里を満喫できるストーリーを提供しています。

#### ②奥木曾湖(味噌川ダム湖)カヌー体験 【遊木民プロジェクト】

春から秋にかけて、「奥木曾湖」で行われるカヌー体験です。

初心者でも気軽に体験でき、ダム湖と大自然の一体感が味わえる人気の企画です。カヌーを楽しみながら、味噌川ダムの大きさや水のきれいさについて、身をもって実感することができます。



広～い奥木曾湖

#### ③木曾川源流「鉢盛山登山」 【遊木民プロジェクト】

木曾川は標高2,447メートルの鉢盛山より発し、登山口には「木曾川源流 母なる川ここに生まるる」という標柱が建っています。そして、鉢盛山に源を発した水は、約8キロ流れ下り、奥木曾湖に流れ込みます。

年3回ほどの登山には、下流域を中心に多くの方が参加し、山頂からの御嶽・乗鞍岳をはじめ北アルプス・中央アルプス連峰一望の眺望を楽しんでいただいています。



鉢盛山の山頂から望む大パノラマ

#### ④冬の森スノーハイキング 【遊木民プロジェクト】

スノーシューを履いて冬の森を散策する体験です。木祖村は雪深く、寒さも厳しい場所ですが、冬にしか見られない景色が楽しめます。

キツネやウサギ、カモシカなど動物の足跡を追いかけて、木々の冬芽を見ながら木曾の遠い春を感じてもらい冬の森を散策します。源流水で入れたコーヒーや森の中で火を焚いてつくる特製トン汁など、あったかメニューが味わえるのも寒い冬の体験の魅力です。



冬の森をスノーシューで散策

#### ⑤糸ノコおもちゃコンテスト 【遊木民プロジェクト】

地域の間伐材利用促進のための木のおもちゃコンテストです。

間伐材を地域振興に生かす目的で、村内在住の木工作家を中心に、味噌川ダム管理所や木祖村役場などと連携しながら開催しています。

指定されたサイズの間伐材の材料だけを使い、糸ノコで作ることが条件となっていますが、全国から集まる100点以上の木のおもちゃは、どれもユニークかつ斬新で、秋の作品展はたくさんの方で賑わいます。



糸ノコから生まれる芸術品

## ⑥元旦鳥居峠ハイキング 【遊木民プロジェクト】

木祖村には、中山道随一の難所と呼ばれた鳥居峠があり、地元にある宝を知るため、1月1日に鳥居峠に登ります。

歴史文化が色濃く残る鳥居峠には、松尾芭蕉の句碑も建っていることから、峠の休憩小屋で行われる新年会では「新春俳句会」も行われ、新しい年のはじまりを皆でお祝いします。

## ⑦サマーキャンプ in KISOGAWA 【遊木民プロジェクト】

上下流交流の一環として、愛知県日進市、名古屋市、木祖村の子どもたちによる2泊3日のキャンプを木祖村の大自然をフィールドに行っています。

野菜の収穫体験・わらじづくり・カヌーなどの体験を通じて、楽しく心に残るキャンプ企画運営を行っています。

## ⑧木曾川の河川環境整備 【四季の彩プロジェクト】

環境整備は、平成15年に木曾川を望む県道26号線沿いに建立された「木曾川・水の始発駅」の標柱モニユメント周辺を中心に年8回ほど行われ、作業には毎回20～30人の地域住民が参加しています。平成24年には、長年の活動が評価され、公益社団法人日本河川協会から「河川功労者表彰」を受賞しました。

ほぼ毎回作業に参加している方は、「源流の里の暮らしの中には、常に木曾川がある。しかし、その木曾川が美しくあることは当たり前のことではない。源流に暮らす者として、きれいな木曾川を守っていかねばいけない。」と、話してくれました。この想いが、10年以上続く活動の原動力であると思います。



きれいな木曾川を未来へ

## ⑨カジカガエルのコーラスまつり 【四季の彩プロジェクト】

環境整備をしている木曾川の河川敷では、7月の終わりに「カジカガエルのコーラスまつり」と題した音楽会が行われます。“整備するだけでなく、きれいになった木曾川の河川敷をみんなで楽しもう！”という発想から始まった企画です。

カジカガエルは、きれいな溪流にだけ棲むアオガエルの仲間、自然の豊かさを示すバロメーターと言われており、初夏の木曾川河川敷や味噌川ダムでもその美しい鳴き声を聴くことができます。

## ⑩そば実かりんとうと加工施設「そば実」 【食の塩梅プロジェクト】



クッキー風で香ばしい「そば実かりんとう」

「食の塩梅プロジェクト」は、主に女性会員で構成されており、食文化を掘り起こし地場産食材を活かした料理や土産品の開発を行っています。

木曾地域は、長野県内でも有数の蕎麦の産地であるため、「そば実かりんとう」を開発し、今では木祖村のお土産の定番となっています。

平成25年には、中山道の藪原宿場内に加工施設「そば実」を開所し、食の開発と、高齢化する住民の食生活の一助として総菜類の販売を行っています。

## ⑪その他の活動

鳥居峠や水木沢天然林のトレッキングコースをはじめ

め木曾路の観光ガイド、村の伝統工芸「お六櫛<sup>ろくし</sup>」の製作体験など村内の団体と連携したイベントも積極的に行っています。

近年では、水木沢天然林の管理業務や地元小中学校の課外授業などの委託を村から受け、各プロジェクトを通じて木祖村の自然や文化を伝える活動をしています。

## (4) 木祖村民の意識変化

NPO水の始発駅の会員を中心として、木曾川環境整備には、村民がボランティアで草刈りに参加したり、環境美化団体「花咲く村づくりの会」では、村内各所の花壇づくりや「街道にぎわいプランター」と称した各家の玄関先を花で飾る活動を毎年行っており、苗づくりなどに多くの村民が協力し合い、“村を花でいっぱいしよう”という活動が根付いています。

また、住民団体「お休み処ときわの会」では、毎週水曜日を開所日とし、郷土料理づくりや包丁研ぎなど様々な催し物を企画し、講師も村民が務めるなど新しい賑わいを創っています。

更に木祖村をPRする観光資源や商品開発なども加速するなど、村民の心の中に「自立した村にしたい」とする思いが、現実として確かに感じられるようになりました。

## (5) 木曾川から学ぶ流域のつながり

### ① 上流域に目を向けた下流域の取組み

木祖村と友好自治体提携している愛知県日進市は、平成5年4月に「平成日進の森林」分収造林事業により植林された約95,000本の木曾ヒノキのつる伐りなどの育林作業を毎年行っており、80年後には立派に育ったこのヒノキを木材として利用するために、今後も間伐等を継続的に行っていく予定です。

この事業がきっかけとなって、下流域の人たちに森林に対する理解が広まり、平成15年には木曾広域連合と愛知中部水道企業団が、「木曾川(水源の森)森林整備協定」の調印式を行いました。これは上下流が共同して水源涵養を目的とした森林整備の促進を約束するもので、下流の市民が使う水1トンにつき1円を積み立て、上流の森林整備資金にするものです。

### ② 木曾川流域が一体となることの大切さ

「中部圏の水がめ」「下流との交流」ということがよくいわれますが、源流の村として、下流はもちろん、中流も含めた流域の人々との交流は、経済効果はもとより、互いに人や文化を知る上でも大事なことです。

また、それ以上に「水がめ」ともなる森林資源の保護・保全が大切であることを、下流の皆さんにも理解をしていただき、物心両面で協力をお願いしたいと思います。源流はもとより、中流も、下流も、流域が一体となり互いに学び合い、発信しあい、活動し合えることが大切です。

### (6) 源流の里がいつまでも元気であるために

木祖村は人口わずか3,000人あまりの小さな村ですが、味噌川ダムの完成を機に「木曾川源流の里」としての新しい村づくりがはじまりました。

味噌川ダムの建設は、木祖村民があらためてふるさと考え、想うきっかけになりました。村民、NPO、行政、味噌川ダムが一体となって行っている木祖村活性化に向けた様々な活動は、今では木曾川流域全体に広がりを見せ、「源流の里 木祖村」が確実に根付き始めてきています。

「源流の里がいつまでも元気であるために…」

この願いは、木曾川に関わるすべての人の願いであり、木曾川源流の里を想うことこそ、元気な地域の源となるはずです。

私たちは、木曾川源流の里の元気と、新しい魅力を創造するために地域の自然や文化を守り、活かし、そして共に学びあいながら多くの人に、そのすばらしさを伝える活動を続けていきます。(了)



木祖村の夏「木曾川源流夏祭り」